

契約案は9月議会に

旧飯岡中のサッカー場



旭市は、2021年度に発注を予定している、旧飯岡中学校の跡地を利用した新たなサッカー場(仮称)整備工事を、7、8月の入札公告および開札、市議会9月定例会での契約請負案の承認を経て着工を目標としている。工事は約6カ月の工期で、年度が明けて22年度中にも供用を始める考え。再活用する管理棟を除いた付帯設備は、追って整備を再検討する。

旭市

事発注する。一方で協和コンサルタツ(東京都渋谷区)がまとめた基本計画・基本設計は、別にフットサルコート2面の整備が盛り込まれていたが、本コート内にフットサル用のラインを設置することで対応できるとし、夜間用の照明設備などにも、利用状況を見てあらためて整備を検討する。

改修の実設計は、アーバンデザインコンサルタンツ(東京都新宿区)を含む建物、クラフス(管理棟)として利用できるよう、更衣室やトイレ、受付ブースを含む建物として別途工

基本計画に着手

焼却施設 リサイクルプラザも

旭市と芝山町・横芝町で構成する山武郡市環境衛生組合は、新ごみ処理施設整備に向けた「ごみ焼却施設整備基本計画策定業務委託」と、リサイクルプラザに関する「リサイクル施設整備基本計画策定業務委託」の各指名競争入札手続きを進めている。4月28日に指名通知しており、今月21日の開札を予定している。

33橋梁で定期点検

佐倉市の城南橋など

佐倉市は18日、城南橋など33カ所の道路橋梁点検業務委託に関する制限付き一般競争入札を告示した。市の橋梁長寿化修繕計画に基づき定期的な点検を実施し、今後の施設整備に活用していく方針だ。

書作成▽新技術などの活用検討▽現地踏査▽定期点検▽点検調査書作成▽その他記録の補完▽報告書作成―などとした。履行期間は2022年3月18日まで。税抜きで約208万1千円を予定している。対象となる橋梁は、城南橋と青膏橋、矢橋、石橋、川土橋、今市橋、下勝田橋、瓜平1号橋、文巻橋、直巻橋、岩倉4号橋、宮ノ橋、白井田3号橋、丸山橋、上座橋、渡戸橋、丸山橋、山崎橋、柏葉橋、佐倉橋、下根1号橋、下根2号橋、下根3号橋、下根4号橋、寺の下橋、弁天橋、小先橋、小宮橋、根崎橋(1)、下志津橋、立橋、皿田橋、西志津歩道橋となる。必要な資格については、年度内市の入札参加資格者名簿で測量コンクリート部門の「土木関係建設コンサルタンツ」に登録されていることや、登録地区が「市内」準市内「県内」(県外)であることなどを求めている。

仮置場適正配置を検討

災害廃棄物の処理計画

館山市は、「市災害廃棄物処理計画」をまとめた公表した。今後、大規模な被害が想定される災害が起きた場合、大量に発生する災害廃棄物の対応について、廃棄物の適正かつ円滑・迅速な処理を、生活環境の保全と

副会長に井上氏ら3人

通常総会 鈴木会長は続投

山武環境衛生建設協会の通常総会が、14日に(県空衛協)は、14日に第55回となる2021年

発注機関に生の声を

千建協館山支部が総会

千建協館山支部が総会として、21年度はコロナ禍から脱却を見込み、GDP成長率など「ポストコロナ」による経済の大幅な回復が予想され、防災・減災や新たなスタートに国土強靱化の推進など調査への適切な対応などを引き続き進めていくことなどを計画に盛り込んだ。

力を結集し課題解決

千葉地域建設協会が総会

千葉地域建設協会が、21年度の事業計画では、新型コロナウイルス感染症の影響がある一方、公共施設整備は盛況に推移し、老朽化した社会資本整備への対応は、今後の建設業に対する良好なイメージ醸成を図る

新技術導入プロポ公告

新技術導入プロポ公告

印西市は、新たな情報処理技術として「RPA(ロボティックプロセスオートメーション)」と「AI・OCR」の導入に関する業務委託に付いて、直接受注した実績があることなどを求

千建協と連携継続

総会で各議案審議

海匠建設建設協同組合(岡田知恵理事長)は、21年度の通常総会を開き、各議案を審議した。

苗を手にする門倉課長と伊藤支部長

松戸市にゴーヤ苗寄贈

日本造園建設協会松戸支部(日造協)伊藤高広支部長は、会員が育てたゴーヤ苗200鉢(4万円相当)を松戸市に寄贈した。

目造協県支部

苗を手にする門倉課長と伊藤支部長

松戸市でも省エネルギーが例年、緑色のカーテンで彩られている。



日本建築家協会関東東甲信越支部千葉地域会(JIA千葉)は、12日(2021年度)の通常総会を千葉市内で開いた。会場への出席は、ウェブ上で中継による「ハイブリッド」形式で開催され、議事のうち役員改選は、榎本雅夫氏、榎本建築設計事務所が幹事に勇退



総会はウェブ上で中継しながら開催

新代表に森田氏

森田新代表は、まず「やってみよう」という姿勢を打ち出し、行政や団体などと協働して共生関係を構築し、地域に必要とされる団体を目指すなどとした。



苗を手にする門倉課長と伊藤支部長

戸克浩副支部長と東松園の松林芳雄営業部長、門倉課長は今年も大事に育てたい。公共施設で苗を育てるとい